

みんなの夢をカタチにする



改修検討委員会 取り組みの経過報告

令和2年10月31日に発行された館報第219号で紹介した「星が丘公民館改修検討委員会」は、令和2年7月から検討が開始され、これまでに10回の委員会が開催されました。

今回は、これまでに検討された諸室の配置及び仕様変更等について、現時点での案をご報告します。



改修検討委員会の様子

【1階】現在 **新**

- 事務室** ⇒ **フリースペース**・・・いつでもどなたでも利用出来るフリースペース。現在の事務室のカウンターや入口の壁を取り外し、オープンなスペースで談話や自習、飲食ができる場とします。
- コミュニティ室** ⇒ **事務室**・・・防犯上の観点から、正面入口から出入りする来館者がカウンター越しに見える位置に事務室を移します。
- 大会議室** ⇒ **大会議室**・・・現在、大会議室の北側にある外倉庫とポンプ室を大会議室の新たな収納庫として改修し、現在の南側の収納庫は撤去することで、部屋のスペースを広げます。また、壁面の一部には大きな鏡を設置します。
- 職員休憩室** ⇒ **和室**・・・現在の職員休憩室の位置に和室を移します。茶道や少人数での会議、講師の控室等として利用できます。
- 保育室** ⇒ **保育室**・・・隣接する図書室の「読書・学習コーナー」との一体利用を可能とするほか、新たな機能として授乳コーナーを設けます。
- 和室** ⇒ **図書室**・・・2階から1階に図書室を移すことで、建物にかかる荷重の軽減を図るとともに、車いすの方も利用しやすいようにします。また、読み聞かせや調べものができるこども向けの「読書・学習コーナー」を新たに設けます。

【2階】現在 **新**

- 料理実習室** ⇒ **料理実習室**・・・新たにアイランドキッチンを設置するほか、壁側には大鍋等を洗える大型のシンクを設置します。料理以外の活動でも利用できるよう、各設備の配置を検討中です。
- 小会議室** ⇒ **コミュニティ室**・・・1階から2階へコミュニティ室を移します。自治会等の地域活動の拠点となります。
- 図書室** ⇒ **多目的室**・・・体操・演奏・歌唱・会議等、多目的な活動に利用できる新たな部屋です。
- 茶室・倉庫** ⇒ **小会議室**・・・少人数の集会のほか、手芸や絵画等の活動で利用できます。

- 【敷地】 駐車場**・・・1台分の駐車幅を広げ、駐車スペースを再整備します。
- 駐輪場**・・・敷地の南側と北側に駐輪場を整備することを検討中です。

「すずかけのき」等に関する意見募集

改修検討委員会では、建物の改修内容の検討と併せて敷地内の整備に関する議論も行われています。

この議論の中で、「すずかけのき」及びその周りの植栽について、駐車場出入口の死角になっていることや、「すずかけのき」の傾きのことを不安視する意見があり、「安全性確保の観点から改修の機会に伐採する」ことを考えています。また、公民館の隣には小学校やこどもセンターがあることから、こどもをはじめとする歩行者の安全対策として、「敷地内の南側に歩道(幅2m)を整備する」という意見も出ています。

実際に歩道を整備した場合には、整備箇所にかかってしまう桜の木や植栽は撤去することになります。



道路(駐車場)からの死角



木の傾きを不安視

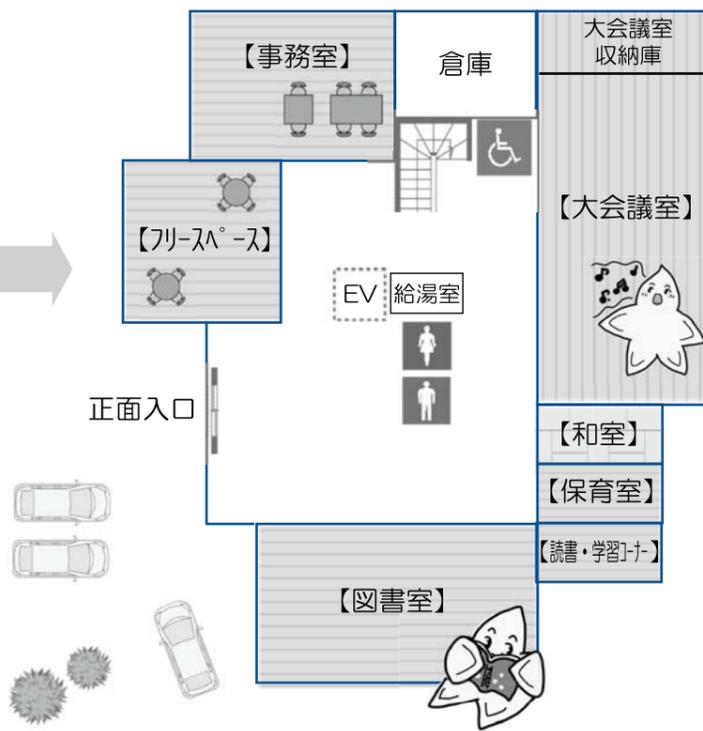
これらについては、こどもたちや施設利用者の安全対策を第一に考え検討されたことですが、幅広く地域の皆さんからのご意見を募集しておりますので、ご意見のある方は、令和3年12月末までに公民館までお寄せください。

受け付けたご意見につきましては、改修検討委員会にお伝えさせていただきます。

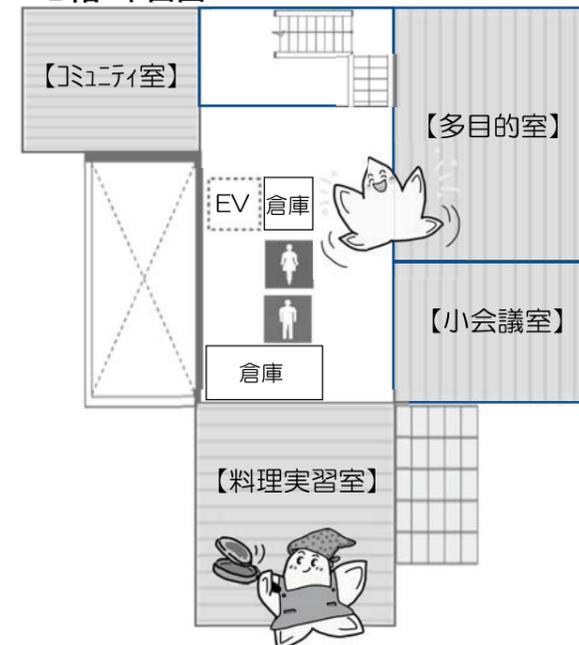
星が丘公民館 改修後諸室配置(案)

部屋名は全て仮称です。また、この図はあくまでイメージ図であり、改修後、必ずこの通りの形になるものではありませんので、ご承知ください。実際の改修にかかる設計は、令和4年度に実施する予定です。

<1階 平面図>



<2階 平面図>



ステラ

★輝き★ No.10

経験が力になる。「つなげる」気持ちをモットーに

館報編集委員が布川 悦子さんの歩んで来た道のお聞きしました。

布川さんは長野県佐久市出身。昭和60年頃から相模原市に住み、現在星が丘地区民生委員・児童委員を務めています。

メキシコに旅行したことを機にスペイン語を独学で学ぶ。さらに勤めていた病院で看護師としてメキシコに留学する機会に恵まれ、様々な経験をしながら、この地でご主人と出会った。



『メキシコでは自分で意思をはっきり伝えないとダメ。やりたいことがあったら考えているよりも行動していく』という国民性が、その後、生きていく上での貴重な体験となり、今もそれを糧として大切にしているそうです。現役時代に自治会長の推薦で民生委員を受ける。看護師の仕事しながら不安だったが、民生委員の仲間がフォローしてくれたお陰で10年間務められてきた。民生委員を受けてよかったことは「友だちができた」こと。地区を歩きながら皆が元気である

かなど見守りをし、コロナ禍でも人とのつながりを大切にしている。『看護師時代もそうだったが、石鹸で泡を立てて手洗いをすることが大切。私は鍵も一緒に洗います。マスクをしっかりとつけて友だちと話すことで気分転換でき、情報も共有できますよ』とおっしゃっていました。

星が丘地区 民生委員・児童委員 布川 悦子さん

取材を終えて... 行動力に驚きました。頼まれたら断らない「つなげる心」がステキです。 館報編集委員